

[夷隅感染症情報]（2021年 第3報）

2021年第8週 ～ 2021年第11週（R3年 2/22 ～ R3年 3/21）

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が3/21に解除されました

「緊急事態宣言」は解除されましたが、リバウンドを起こさない行動をお願いします。

- 年度初め等に行われる行事等の注意 ～歓送迎会などは自粛～
- 不要不急の外出自粛を徹底 ～昼夜を問わず、徹底！～
- 基本的な感染対策を徹底 ～会話するときはマスクを着用
「3つの密」を徹底的に避けるとともに、「人と人の距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」等の基本的な感染対策を行ってください。
- 飲食時の注意 ～昼夜や場所を問わず黙食・少人数で～
- カラオケの利用の際の注意 ～マスク等の着用を～

感染が心配な時は、・・・

- 発熱等の症状を感じたら、日ごろ通院している医療機関か、お住まいの近くにある医療機関に、まずは電話で御相談ください。（医療機関を受診する際は、必ず電話等で事前予約してから受診してください。）
- 発熱相談コールセンターでは、発熱患者等が相談先に迷う場合の窓口の一つとして、診療可能な医療機関を御案内しています。
- なお、県ホームページでは、地域毎に相談窓口の電話番号（コールセンター、市町村、発熱相談医療機関）を掲載しています。

◎千葉県発熱相談コールセンター（令和3年4月1日～ 以下の番号に変更になります）
（電話番号） 0570-200-139（令和3年4月1日（木）0時以降）
（対応時間） 24時間（土日・祝日を含む）

◎夷隅保健所（夷隅健康福祉センター）での相談
（電話番号） 0470-73-0145
（対応時間） 平日の午前8時30分から午後5時15分

1 新型コロナウイルス感染症について <千葉県ホームページより>

1) 千葉県内で確認された感染者数（令和3年3月24日15時現在）

陽性者数(累積) ()内は新規感染者	現在の感染者数	退院・療養終了	死亡
28,918(108)	1,037	27,334	547

2) PCR 検査実施状況（令和3年3月21日現在）

累積検査実施人数 (陰性化確認検査を除く)	直近1週間の検査 人数	直近1週間の 陽性者数	直近1週間の 陽性割合(%)
459,473	8,010	440	5.49

2 管内の感染症発生状況

管内では、第8週に2例の結核の発生届がありました。

新型コロナウイルス感染症は、管内の医療機関から管外居住者分も含めて、第8週～第11週までに7例の発生がありました。

●管内の全数把握感染症情報 ●

<類別・疾患別集計表>

区 分	8週-11週	累計(2021年発生分)
1 類感染症	0	0
2 類感染症		
結核	2	6
3 類感染症	0	0
4 類感染症 (※管内居住の患者数)	0	9(つつが虫病8 E型肝炎1)
5 類感染症 (※管内医療機関からの届出数)	0 0 0	0 0 0

●管内定点把握対象疾患 ●

疾患名 (インフルエンザ及び小児科定点疾患)	2021年 1週～ 11週の 累計	直近5週の届出数				
		2021年 7週	8週	9週	10週	11週
1 インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症を除く)	1	0	0	0	0	0
2 RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0
3 咽頭結膜熱	7	0	1	0	0	1
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	2	0	1	0	1
5 感染性胃腸炎	3	0	2	0	0	0
6 水痘	5	1	0	0	0	0
7 手足口病	1	1	0	0	0	0
8 伝染性紅斑	0	0	0	0	0	0
9 突発性発しん	2	0	0	0	0	0
10 ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0
11 流行性耳下腺炎	1	0	0	0	0	0

<参考> 夷隅健康福祉センター管内の定点医療機関は、

インフルエンザ定点 : 5 医療機関

小児科定点 : 3 医療機関

の協力を得ています。

3 県内の感染症発生状況 (出典:千葉県感染症情報センター 2021年第11週 週報より)

第11週全数報告疾患集計表

一類感染症	今週	累計(年)
エボラ出血熱	0	0
クリミア・コンゴ出血熱	0	0
痘そう	0	0
南米出血熱	0	0
ベスト	0	0
マールブルグ病	0	0
ラッサ熱	0	0

二類感染症	今週	累計(年)
急性灰白髄炎	0	0
結核	13	193
ジフテリア	0	0
重症急性呼吸器症候群(SARS)	0	0
中東呼吸器症候群(MERS)	0	0
鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0
鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0

三類感染症	今週	累計(年)
コレラ	0	0
細菌性赤痢	0	1
腸管出血性大腸菌感染症	1	12
腸チフス	0	0
パラチフス	0	0

四類感染症(その1)	今週	累計(年)
E型肝炎	0	8
ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	0	0
A型肝炎	0	1
エキノкокクス症	0	0
黄熱	0	0
オウム病	0	0
オムスク出血熱	0	0
回帰熱	0	0
キャサナル森林病	0	0
Q熱	0	0
狂犬病	0	0
コクシジオイデス症	0	0
サル痘	0	0
ジカウイルス感染症	0	0
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	0	0
腎症候性出血熱	0	0
西部ウマ脳炎	0	0
ダニ媒介脳炎	0	0
炭疽	0	0
チクングニア熱	0	0
つつが虫病	0	18
デング熱	0	0
東部ウマ脳炎	0	0
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0
ニパウイルス感染症	0	0

新型インフルエンザ等感染症(その1)	累計
新型コロナウイルス感染症*	28,810

* 千葉県報道発表による(3月23日15時現在)

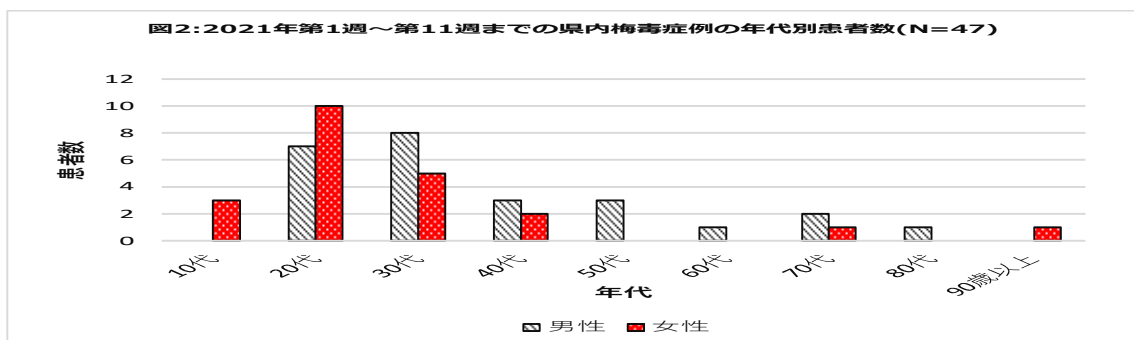
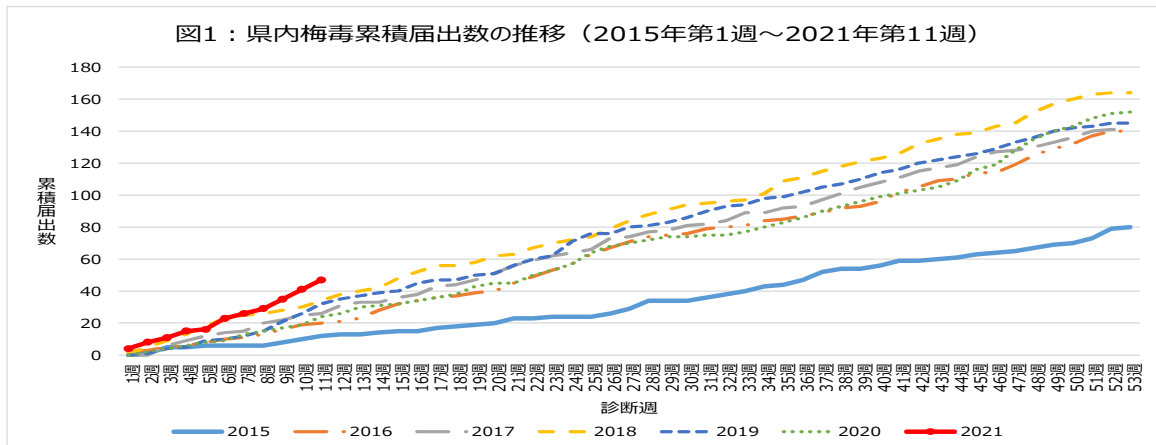
四類感染症(その2)	今週	累計(年)
日本紅斑熱	0	0
日本脳炎	0	0
ハンタウイルス肺症候群	0	0
Bウイルス病	0	0
鼻疽	0	0
フルセラ症	0	0
ペネズエラウマ脳炎	0	0
ヘンドラウイルス感染症	0	0
発しんチフス	0	0
ボツリヌス症	0	0
マラリア	0	0
野兔病	0	0
ライム病	0	0
リッサウイルス感染症	0	0
リフトバレー熱	0	0
類鼻疽	0	0
レジオネラ症	2	8
レプトスピラ症	0	0
ロッキー山紅斑熱	0	0

五類感染症(全数)	今週	累計(年)
アメーバ赤痢	0	5
ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	0	1
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	10
急性弛緩性麻痺	0	0
急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)	0	6
クリプトスポリジウム症	0	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	0	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	2
後天性免疫不全症候群	0	5
ジアルジア症	0	0
侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0
侵襲性肺炎球菌感染症	0	5
水痘(入院例)	0	3
先天性風しん症候群	0	0
梅毒	6	47
播種性クリプトコックス症	0	0
破傷風	0	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0
百日咳	2	11
風しん	0	1
麻疹	0	0
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0

新型インフルエンザ等感染症(その2)	今週	累計(年)
新型インフルエンザ	0	0
再興型インフルエンザ	0	0

【今週の注目疾患】 梅毒

2021年第11週に県内医療機関から6例の梅毒の届出があり、2021年(第1～11週)の累計は47例となった。前々週、前週ともに6例の届出を認めており、過去の同時期と比べ症例数は最も多くなっている(図1)。届出のあった患者の性別では、男性25例(53%)、女性22例(47%)となっており、全国の梅毒患者の発生動向(2015年～2018年の患者報告数において女性の占める割合は32%)に比べると女性の割合が高い。年代別では20代が17例(36%)、次いで30代が13例(28%)と若年者の届出が多く、特に20代の女性の症例が最多となっている(図2)。



近年の全国における梅毒の発生動向調査(2015年～2018年)によると、異性間性的接触を感染経路とする感染者の割合が増加してきており、本県においても本年の梅毒症例は異性間性的接触を感染経路とするものが最も多い。引き続きコンドームの不適切な使用による感染リスクの上昇や、オーラルセックスやアナルセックスでも感染すること、パートナーの検診、妊婦検診や妊娠中の性感染症予防の重要性について、広く啓発をしていく必要がある。

梅毒は、原因である梅毒トレポネーマに感染すると、約3週間の潜伏期を経て、経時的に様々な臨床症状が逐次出現する。その間症状が軽快する時期があり治療開始が遅れることにつながる。梅毒は早期の薬物治療で完治が可能であるが、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置したりすると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがある。時に無症状になりながら進行するため、治療を途中でやめないこと、また完治しても感染を繰り返すことがあり、再感染の予防が必要である。

- ・早期顕症梅毒(Ⅰ期:感染後約3週間):梅毒トレポネーマが進入した局所(主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等)にしこりや潰瘍が形成される。鼠径部のリンパ節が腫れることもある。無治療でも数週間で軽快するが、梅毒トレポネーマは体内から消失したわけではない。

- ・早期顕症梅毒(Ⅱ期:感染後数ヶ月):無治療のまま経過すると、梅毒トレポネーマは血行性に全身に移行し、手のひらや足の裏を含む全身に発疹が出現することがある。発疹は治療をしなくても数週間以内に消える場合があるが、再発を繰り返すこともある。ここでも抗菌薬で治療しない限り、梅毒トレポネーマは体内に残る。

- ・晩期顕症梅毒:さらに無治療のまま経過すると、数年～数十年後の潜伏期間を経て、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍(ゴム腫)の発生や、心臓、血管や脳などの複数の臓器に病変が出現することがある。

< 感染症情報のリンク先 >

- ・ 国立感染症研究所 <http://www.niid.go.jp/niid/ja/>
- ・ 千葉県健康福祉部疾病対策課 <https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/index.html>
- ・ 千葉県感染症情報センター（千葉県衛生研究所感染疫学研究室内）
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>
- ・ 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>
- ・ 厚生労働省検疫所（FORTH） <http://www.forth.go.jp/>

< 梅毒に関する情報のリンク先 >

- ・ （国立感染症研究所 先天梅毒の手引き）
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/pdf/01-05-11-3-c.pdf>

《参考・引用》

- ・ 厚生労働省:梅毒に関する Q&A
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html
- ・ 国立感染症研究所:梅毒とは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info.html>
- ・ 国立感染症研究所:IASR:【特集】梅毒(2020年)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-iasrtpc/9342-479t.html>

感染症情報の受信先設定について

日頃、感染症対策の推進に御協力いただきありがとうございます。

【連絡】

登録アドレスの廃止、変更等は連絡願います。

【利用にあたっての注意】

『夷隅感染症情報』の感染症の説明等は主に公的機関の情報を基に作られ、できるだけ最新で正確なものを発信するよう努めておりますが、御利用に際しては、利用機関の責任において御使用ください。また、メールの安全性についても県庁のネットワークシステムの一環として安全性の確保を図っておりますが、受信先におきましてもセキュリティー等の注意をお願いします。

※このアドレスは送信専用です。お問い合わせの際には下記まで御連絡ください。

<配信元>

千葉県夷隅健康福祉センター（夷隅保健所）

【お問い合わせ先】

isumiho3@mz.pref.chiba.lg.jp
